研究記事 45

エホバの神殿で崇拝できるのは素晴らしいこと

「天と地.....を造った方を崇拝しなさい」。啓示 14:7

93 番の歌 集会を祝福してください

何を学ぶか*聖書の深い真理の中には，エホバの偉大な神殿に関するものがあります。この神殿とは何でしょうか。この記事では，「ヘブライ人のクリスチャンへの手紙」に収められている，神殿に関する情報を調べます。エホバを崇拝できることへの感謝を深められるでしょう。

1. 天使は何と言っていますか。それは私たちにどんな関係がありますか。

もし天使から話し掛けられたら，どうしますか。よく聞こうとするのではないでしょうか。実際，天使は「あらゆる国や民族や言語や種族の人々に」こう言っています。「神を畏れ，神をたたえなさい。……天と地……を造った方を崇拝しなさい」。（啓 14:6，7 また私は，別の天使が空高く(d*中天を)飛んでいるのを見た。その天使は，地上に住む人々，すなわち，あらゆる国や民族や言語や種族の人々に伝える，永遠の良い知らせを携えていた。 7 天使は大声でこう言った。「神を畏れ，神をたたえなさい。神による裁きの時が来たからです。天と地と海と泉を造った方を崇拝しなさい」）エホバだけが真の神で，全ての人から崇拝されるのにふさわしい方です。私たちには，エホバを偉大な神殿で崇拝できるという素晴らしい機会があります。そのことに本当に感謝できるのではないでしょうか。

2. エホバの神殿は何を指していますか。（「どんなものではないか」の囲みも参照。）

2 このエホバの偉大な神殿とは何でしょうか。詳しい説明はどこにあるでしょうか。この神殿は文字通りの建物ではありません。***イエス・キリストの贖いの犠牲に基づく，エホバに喜ばれる崇拝を捧げるための取り決め***のことです。パウロは 1 世紀のユダヤに住んでいたヘブライ人のクリスチャンに宛てた手紙の中で，この取り決めについて説明しました。*jw.org の「ヘブライの紹介」の動画を見ると，「ヘブライ人のクリスチャンへの手紙」の概要を知ることができます。

どんなものではないか

- **パウロが説明した神殿は，エゼキエルが幻の中で見た神殿ではない。**エゼキエルが見た幻は，清い崇拝に関するエホバの基準と，清い崇拝が現代に回復することに光を当てている。（エゼ 40:1-5 私たちが捕囚にされて 25 年目の初め，第 1 の月の 10 日，都市(*エルサレムのこと)が陥落してから 14 年目のその日に，エホバの力が私に働き，私は都市に連れていかれた。 2 神は幻の中で私をイスラエルに連れていき，非常に高い山の上に下ろした。南の方に都市のようなもの

があった。 3 そこに連れていかれると，私は 1 人の人を見た。その姿は銅のように輝いていて，亜麻の綱とアシの物差しを持ち，門の所に立っていた。 4 その人は私に言った。「人の子よ，よく見て，注意深く聞き，私が見せるもの全てに注意を払いなさい。あなたはそのために連れてこられたからです。あなたが見ることを全部イスラエル国民に話しなさい」。 5 見ると，神殿(d*家/40-48 章で，「家」が神殿の建物群や主な建物を指す場合，「神殿」と訳している)の周りを塀が囲んでいた。私に話した人が持っていたアシの物差しは，長さが 3.1 メートル(*)あった。彼は塀を測り始めた。塀の厚さは 3.1 メートルで，高さも 3.1 メートルだった） *「エホバの清い崇拝 ついに回復される！」の 240 ページを参照。

- 「エホバの聖なる神殿」ではない。「エホバの聖なる神殿」は，クリスチャン会衆で仕える，天に行くよう選ばれた人たちを指している。（エフェ 2:19-22 ですから，皆さんはもう無関係な人でも外国人でもありません。聖なる人たちと同じ国民であり，神の家族の一員です。 20 皆さんは使徒や預言者たちという土台の上に建てられており，キリスト･イエスは土台の隅石です。 21 キリストと結ばれることによって建物全体はしっかりと組み合わされ，エホバ(*)の聖なる神殿になります。 22 皆さんもキリストと結ばれることによって共に建てられ，神が聖なる力によって住む場所になります。コリ一 3:16，17 **皆さんは，自分たちが神の神殿**であり，**自分たちの中に神の聖なる力が宿っている**ことを知らないのですか。 17 もし誰かが神の神殿を滅ぼすなら，神はその人を滅ぼします。神の神殿は聖なるものだからです。皆さんはその神殿なのです。コリ二 6:16 神の神殿と偶像にどんな接点があるでしょうか。**私たちは，生きている神の神殿**です。神が言った通りです。「私は彼らの中に住み，彼らの中を歩く。そして私は彼らの神となり，彼らは私の民となる」） *「ものみの塔」2010 年 7 月 15 日号 22 ページの「霊的神殿の意味が霊によって明らかになる」の囲みを参照。

- 比喩的パラダイスではない。比喩的パラダイスは，エホバの取り決めに従って崇拝を行う人たちの間に見られる，一致のうちに安心してエホバを崇拝できる環境を指している。

3-4. パウロは，ユダヤに住むヘブライ人のクリスチャンについてどんなことを心配していましたか。どのように助けましたか。

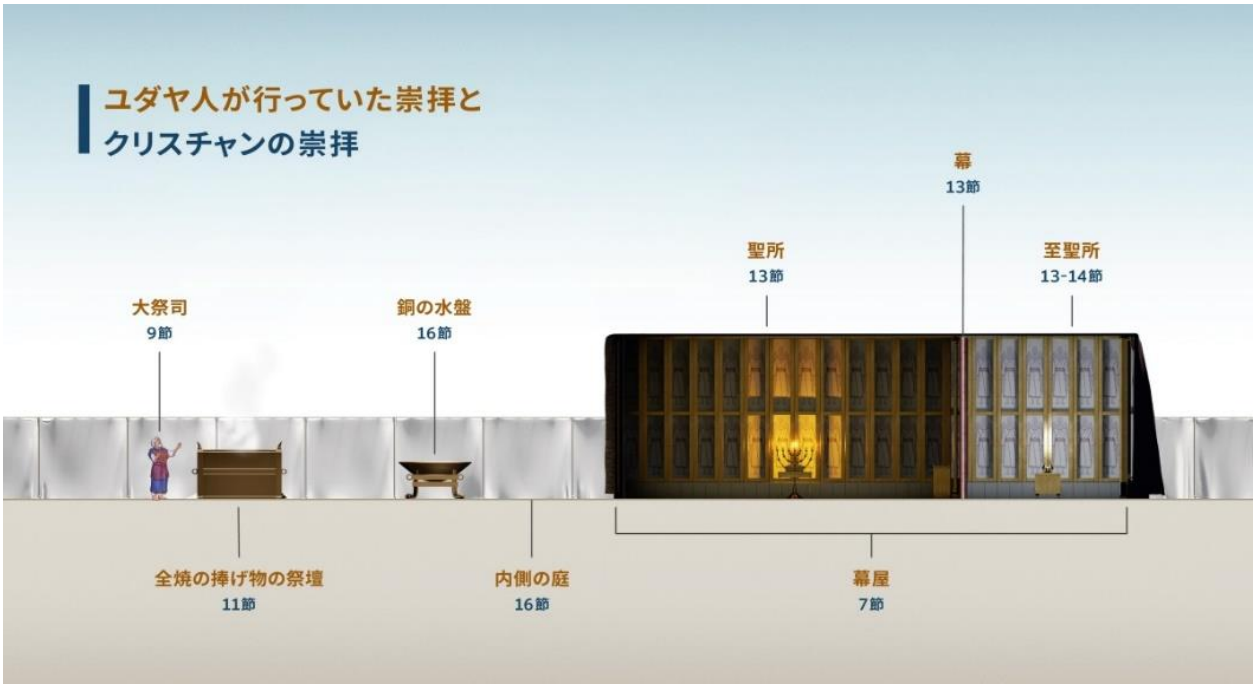
3 パウロはどうしてユダヤに住むヘブライ人のクリスチャンに手紙を書いたのでしょうか。主に 2 つの理由が考えられます。 ①つ目に，パウロは**励ましを与えたい**と思っていました。兄弟姉妹の多くは，以前ユダヤ教の教えに従っていました。もしかすると，宗教指導者たちからクリスチャンになったことをばかにされたかもしれません。クリスチャンには崇拝のための神殿や祭壇もなければ，祭司たちもいなかったからです。そのことで気落ちし，信仰が弱まってしまう可能性がありました。（ヘブ 2:1 ですから，**私たち**は**聞いた事柄に普通以上の注意を払**う必要があります。決して流されない(*漂い出ない)ようにするためです; 3:12 兄弟たち，皆さんの誰も，**生きている神から離**れて，**信仰が欠けた悪い心を育てることがないよう**，気を付けてください，14 **初めに抱いた確信**を終わりまで**しっかり持ち続ける**なら，私たちは**本当にキリストと共になる(*分け合う)**ことができるのです） ユダヤ教に戻ることを考えた人たちさえいたかもしれません。

4 ②つ目に，ヘブライ人のクリスチャンは，「固い食物」つまり神の言葉の中にある新しい教えや深い教えを理解しようと**努力していません**でした。（ヘブ 5:11-14 **キリストについて話したいこと**は**たくさん**ありますが，説明しにくく思います。皆さんは**聞く力が鈍く**なっているからです。 12 皆さんはすでに教え

る人になっているべきなのに，**神の神聖な宣言の基礎的な事柄を，もう一度初めから誰かに教えてもらう必要**があります。そして，**固い食物(*よくかんで食べる物)ではなく，乳を必要とする状態に逆戻り**しています。 13 いまだに乳を飲んでいる人は皆，幼い子供であり，神の正しい言葉をよく理解していません。 14 一方，**固い食物**(*よくかんで食べる物)は，**十分に成長した人(*大人)のためのもの**です。そのような人は，**使うこと**によって**識別力(*知覚力)を訓練**したので，**正しいことも悪いことも見分ける**ことができます）中には，まだモーセの律法に従っていた人たちもいたようです。でもパウロは，それは「無効に」なったと説明しました。モーセの律法で求められていた犠牲を捧げても，罪を完全に取り除くことはできなかったからです。さらに，パウロは深い真理について教え，イエスの犠牲に基づく「勝った希望」があることを思い起こさせました。その希望は，クリスチャンが本当の意味で「神に近づ[く]」助けになります。（ヘブ 7:18，19 それで，以前のおきては，**弱くて効果がないため**に**無効**になりました。 19 **律法は何も完全にしませんでしたが，勝った希望が差し伸**べられることによって**完全さがもたらされ**ました。**その希望によって私たちは神に近づいています**）

5.「ヘブライ人のクリスチャンへの手紙」に書かれているどんな点に注目するのは大切ですか。どうしてですか。

5 パウロは，クリスチャンの崇拝が**過去のもの**よりも**はるかに優れている**と言える理由について説明しました。ユダヤ人が律法に沿って行っていた崇拝は「後に来るものの***影***であって，その***実体***はキリスト」であると言いました。（コロ 2:17 そうしたものは**後に来るものの影**であって，その**実体**は**キリスト**です）影から分かるのは，光が当たっている物の大体の形にすぎません。ユダヤ人が行っていた崇拝は，後に行われることになっていた，クリスチャンの崇拝という「実体」の「影」にすぎませんでした。エホバは私たちの罪を許し，私たちがエホバに喜ばれる崇拝を行えるように，取り決めを設けてくださいました。では，「ヘブライ人のクリスチャンへの手紙」の中で説明されている「**影**」（ユダヤ人が行っていた崇拝）と「**実体**」（クリスチャンの崇拝）を**比べて**みましょう。そうするなら，神殿で表されているエホバの取り決めについてよく理解し，それが私たちにどんな関係があるかも知ることができます。



幕屋　(※上図が先)

6. 幕屋はどのように使われていましたか。

6 ***ユダヤ人が行っていた崇拝。*** パウロは，モーセが紀元前 1512 年に立てた幕屋を基に話を進めています。（「ユダヤ人が行っていた崇拝とクリスチャンの崇拝」の上図表を参照。）その幕屋はテントのような造りになっていて，イスラエル人は移動するたびにそれを持ち運んでいました。エルサレムに神殿が建設されるまで，500 年近く使われていました。（出 25:8，9 民は私のために聖なる所を造らなければならない。私は民の中に住む。 9 あなたたちは，**私が示す型(*設計)の通りに幕屋(*)と全ての備品**を作らなければならない。民 9:22 2 日でも 1 カ月でもそれ以上でも，**雲が幕屋の上にとどまっている間**は，イスラエル人は**宿営し続け**，出発しなかった。しかし，雲が持ち上がると，出発した）イスラエル人は「会見の天幕」に集まって，エホバを崇拝したり犠牲を捧げたりしていました。（出 29:43-46 私はそこでイスラエル人に現れ，そこは私の栄光によって神聖なものとされる。 44 私は会見の天幕と祭壇を神聖なものとする。また，アロンとその子たちが祭司として私に仕えるために，彼らを神聖なものとする。 45 私はイスラエルの民の中に住み，彼らの神となる。 46 民は，私が彼らの神エホバであり，彼らの中に住むために彼らをエジプトから連れ出したことを必ず知る。私は彼らの神エホバである）でも幕屋は，クリスチャンが行うことになっていたはるかに優れた崇拝を表していました。

7. エホバの偉大な神殿はいつ存在するようになりましたか。

7 ***クリスチャンの崇拝。*** 幕屋は「天にあるものの影」で，エホバの偉大な神殿，つまり崇拝の取り決めを表していました。パウロは，「この天幕[つまり，幕屋]は今あるものを表して[いる]」と言いました。（ヘブ 8:5 その人たちがしている**神聖な奉仕**は，**天にあるもの**を**かたどった**もの，また天にあるものの**影**です。そのことは，モーセが天幕を立てようとしていた時に神から命じられた次の言葉に示されています。「この山で示された**型の通りに全ての物を作**るようにしなさい」；9:9 この**天幕**は**今あるものを表**しており，その取り決めに従って**供え物と犠牲が捧げられ**ています。しかしそれらは，神聖な奉仕をしている人の良心を完全にすることができません）このことから，パウロが「ヘブライ人のクリスチャンへの手紙」を**書いた時点**で，この取り決めはすでに**存在**していたことが分かります。この神殿は，西暦 29 年に存在するようになりました。その年にイエスはバプテスマを受け，聖なる力によって選ばれ，エホバの「偉大な大祭司」となりました。*ギリシャ語聖書の中で**イエスの大祭司としての役割**について書かれているのは，「**ヘブライ**人のクリスチャンへの手紙」**だけ**です。（ヘブ 4:14 私たちには，天に行った偉大な大祭司，神の子イエスがいるのですから，**イエスについて人々に語り続**けましょう。使徒 10:37，38 皆さんは，ユダヤ全土で話題になった事柄を知っています。それは，ヨハネがバプテスマについて伝えた後にガリラヤから広まりました。 38 ナザレの人イエスのことであり，**神は聖なる力によってイエスを選び(d*に油を注ぎ)，力を与**えました。イエスは各地を回って，善いことを行い，悪魔に虐待されている人を全て癒やしました。**神が共にいた**からです）

大祭司

8-9. ヘブライ 7 章 23-27 節によると，イスラエルの大祭司と偉大な大祭司イエス・キリストにはどんな大きな違いがありますか。

8 ***ユダヤ人が行っていた崇拝***。大祭司には，神の前で民を代表する役割がありました。幕屋が立てられた時，エホバはイスラエルの最初の大祭司としてアロンを任命しました。でも，パウロが言っている通り，「人はやがて死に，祭司として仕え続けられなくなる」ため，「多くの人が祭司職を引き継いでいかなければなりませんでした」。*ある文献によると，西暦 70 年にエルサレムの神殿が滅ぼされた時までに，84 人がイスラエルの大祭司を務めたようです。（ヘブライ 7:23-27 さらに，これまでは多くの人が祭司職を引き継いでいかなければなりませんでした。**人はやがて死に，祭司として仕え続けられなくなる**からです。 24 **しかし，イエスは永遠に生き続**けるので，**誰かが祭司職を引き継ぐことは**ありません。 25 そのためイエスは，**自分を通して神に近づく人たちを完全に救**うことができます。**常に生きて**いて，**彼らのために願い出**てくださるからです。 26 私たちは**このような大祭司を必要**としていました。**神に尽くし(*を揺るぎなく支持し/から離れず)**，**潔白**で，**汚れがなく**，**罪人から分**けられ，**どんな天よりも高い地位に就**けられた方です。 27 この方は，ほかの大祭司とは違い，まず自分自身の罪のために，次いで民の罪のために，毎日犠牲を捧げる必要はありません。**自分を捧**げた時，**一度で永遠に有効な犠牲を捧**げたからですを読む。）また，大祭司も不完全な人間だったので，自分たちの罪のために犠牲を捧げる必要がありました。こうした点で，イスラエルの大祭司と偉大な大祭司イエス･キリストには大きな違いがあります。

9 *クリスチャンの崇拝*。私たちの大祭司であるイエス･キリストは，「人間ではなくエホバが立てた真の天幕……で奉仕してい」ます。（ヘブ 8:1，2 私たちが述べていることの**要点**は，次の通りです。私たちにはこのような**大祭司**がいて，**その方**は**天で威光に輝く神の座の右に座**り， 2 人間ではなく**エホバ(*)が立**てた**真の天幕の聖なる場所**で**奉仕(*公僕として奉仕)**している，ということです）パウロは，「イエスは永遠に生き続けるので，誰かが祭司職を引き継ぐことはありません」と説明しています。さらにイエスは，イスラエルの大祭司とは違って「汚れがなく，罪人から分けられ」ているので，自分の罪のために「毎日犠牲を捧げる必要はありません」。では次に，祭壇や犠牲の面ではどんな違いがあるのか考えてみましょう。

祭壇と犠牲

10. 銅の祭壇で捧げられていた犠牲は何を表していましたか。

10 ***ユダヤ人が行っていた崇拝***。幕屋の入り口の前には，エホバに動物の犠牲を捧げるための銅の祭壇がありました。（出 27:1，2 **アカシア材で祭壇を作**る。縦 2.2 メートル，横 2.2 メートルの四角い祭壇で，高さは 1.3 メートルである。 2 四隅に角を作る。角も祭壇の一部で，**祭壇には銅をかぶせる**; 40:29 会見の天幕すなわち幕屋の入り口の前に**全焼の捧げ物の祭壇**を据えた。そこで**全焼の捧げ物**と**穀物の捧げ物**を捧げる。エホバがモーセに命じた通りである）でも，こうした犠牲を捧げても罪を完全に取り去ることはできなかったので，繰り返し捧げる必要がありました。（ヘブ 10:1-4 **律法**は**後に来る良いものの影**にすぎず，**実体では**ありません。ですから，**毎年同じ犠牲が捧げられても**，神に近づく人が律法(if*人々/祭司たちのことかもしれない)によって**完全になることは決して**ありません。 2 もし完全になるとすれば，神聖な奉仕をする人は一度清められれば罪の自覚がなくなるので，もう犠牲は捧げられていないはずではないでしょうか。 3 ところが逆に，**犠牲は毎年捧げられ**，**罪を思い出させるもの**となっています。 4 **雄牛やヤギの血**は**罪を取り去ることができない**からです）この犠牲は，人類の罪を完全に取り去るために一度限り捧げられることになっていた犠牲を表すものでした。

11. イエスはどんな祭壇で自分を犠牲として捧げましたか。（ヘブライ 10:5-7，10）

11 ***クリスチャンの崇拝***。イエスは，エホバから地上に遣わされたのは人間としての命を人類のための贖いとして捧げるためだ，ということを知っていました。（マタ 20:28 人の子も，仕えてもらうためではなく仕えるために，また多くの人と引き換える**贖いとして自分の命を与えるために来**ました）それで**バプテスマ**の時に，エホバが望まれることを行うために自分を差し出しました。（ヨハ 6:38 私が天から下ってきたのは，自分の望むことではなく，**私を遣わした方の望むことを行うため**だからです。ガラ 1:4 父である**神の意志の通り**，キリストは**私たちの罪を取り去るため**に**自分を差し出**し，私たちが**今の悪い体制(*時代)から救い出されるように**してくださいました）イエスは，エホバの「望まれること」を表す“祭壇”で自分を犠牲にしました。エホバはイエスが人間としての完全な命を差し出すことを望んでおられました。イエスの命は，イエスに**信仰を持つ人全て**の**罪**を**永久**に取り去るために「一度限り」捧げられました。（ヘブライ 10:5-7 それで，キリストは世に来る時，こう言いました。「『**あなた**は**犠牲や捧げ物を望**まず，私に体を与えてくださいました。 6 あなたは**全焼の捧げ物**や**罪の捧げ物**を**喜ばれません**でした』。 7 私は言いました。『ご覧ください，私は来ました。巻物に私について書いてある通り，神よ，あなたの望まれることを行うためにです』」，10 この「望まれること」により，イエス･キリストの体が一度限り捧げられたので，私たちは神聖なものとされていますを読む。）では次に，幕屋の中に注目してみましょう。

聖所と至聖所

12. 聖所と至聖所にはそれぞれ誰が入ることができましたか。

12 ***ユダヤ人が行っていた崇拝***。幕屋と後にエルサレムに建てられた神殿には似たような特徴がありました。「聖所」と「至聖所」があり，刺しゅうされた幕で仕切られていました。（ヘブ 9:2-5 **天幕には第一の部屋**が設けられ，そこには**ランプ台**と**食卓**があり，**供え物のパン**が置かれていました。その部屋は**聖所**と呼ばれています。 3 **天幕の第二の幕(*)の後ろ**には，**至聖所**と呼ばれる部屋がありました。 4 そこには**金の香炉**と，**全面に金をかぶせた契約の箱**があり，その箱の**中**には，**マナを入れた金のつぼ**，**芽を出したアロンのつえ**，**契約の石板**がありました。 5 **箱の上**には**栄光に輝くケルブの像**が 2 つあり，**償い(*和解)のための覆い(*贖罪の場所)**に**影を投げ掛**けていました。しかし今は，これらの物について詳しく述べることはしません。出 26:31-33 青糸，紫の羊毛，緋色の糸，上等の亜麻のより糸で**幕を作り**，**ケルブの刺しゅう**をする。 32 **金をかぶせたアカシアの 4 本の柱**に**その幕を掛**ける。掛け金具は金である。柱は 4 つの銀の受け台の上に立てる。 33 幕は留め金の下の位置に掛け，**幕の内側に証しの箱を入**れる。その**幕は**，**聖所と至聖所の間仕切り**となる）***聖所***の中には，金のランプ台，香の祭壇，供えのパンの食卓がありました。「選ばれた祭司」だけが，神聖な務めを行うために聖所に入ることができました。（民 3:3 これらが**アロンの子たち**の名前であり，**選ばれた(d*油を注がれた)祭司**で，祭司として仕えるよう任命されて(d*手を満たされて)いた，7 **会見の天幕の前**で，**アロンと民全員のために務め**を果たし，**幕屋に関係する奉仕を**行う，10 あなたは**アロンとその子たちを任命**し，彼らが祭司職を担う。**許可されていない人**(d*よそ者/**アロンの子孫ではない人**のこと)が**近づくなら**，**死刑**にされるべきである）***至聖所***には，金がかぶせられた**契約の箱**が置かれていました。それは**エホバの臨在**を表すものでした。（出 25:21，22 そのふたを箱の上に置く。箱の中には，私が与える**証しの石板**を入れておく。 22 私は**ふたの上に現**れ，そこから**あなたに話**す。**証しの箱の上にある 2 つのケルブの間から**，イスラエル人に**あなたが伝えるべき全ての事柄**を**知らせる**）毎年の**贖罪の日**に，**大祭司**だけが幕の向こう側にある**至聖所に入**ることができました。（レビ 16:2 エホバは**モーセに**言った。「あなたの**兄アロンにこう告**げなさい。幕の内側の**聖なる場所**，**箱のふたの前**へ**勝手に入ってはならない**。**死ぬことのないため**である。**私は雲と共にふたの上に現**れるからである，17 聖なる場

所で**贖罪をするためにアロンが入ってから出てくるまで，他の人は会見の天幕の中にいては**ならない。**アロンは**自分のため，自分の家のため，イスラエルの会衆全体のために**贖罪を行**う）大祭司は動物の血を持っていき，自分と国民全体の罪のために贖罪を行いました。やがてエホバは聖なる力によって，幕屋のこうした特徴が何を表しているかを明らかにしました。（ヘブ 9:6-8 これらの物がこのように設けられた後，**祭司たち**が**毎日天幕の第一の部屋**に入って神聖な奉仕をします。 7 **しかし第二の部屋**には，**大祭司だけが年に 1 度入**ります。必ず血を携えて入り，それを自分自身のためと，民が知らずに犯した罪のために捧げます。 8 従って，**聖なる力**が**はっきり示**しているように，**第一の天幕が立っていた間**は，**聖なる場所への道はまだ明らかにされていません**でした）*贖罪の日に大祭司が行ったことの象徴的な意味については jw.org にある「天幕」という動画をご覧ください

13. 聖所と至聖所はそれぞれ何を表していますか。

13 ***クリスチャンの崇拝***。イエスの弟子のうち 14 万 4000 人だけが，聖なる力によって選ばれ，イエスと一緒に天で祭司として働きます。これらの人たちは，**神によって選**ばれた**神の養子**です。（啓 1:6（**この方**は**私たち**を，自分の**父である神に仕**える**王**および**祭司**としてくださいました），まさにこの方に，**栄光と力が永遠に**ありますように。アーメン; 14:1 私がさらに見ると，**子羊がシオンの山に立**っていた。そして**子羊と共に 14 万 4000 人の者たちがいて**，彼らの**額**には**子羊の名**と**その父の名**が書かれていた）幕屋の***聖所***は，天に行く人たちが地上にいる間に持つことのできる**エホバとの特別な関係**を表しています。（ロマ 8:15-17 皆さんは，聖なる力により奴隷とされて再び恐れを抱いたのではなく，**聖なる力**により**養子とされた**のであり，その力によって私たちは「**アバ**(「父よ」という意味のヘ語 or アラム語)，**父よ！**」と叫びます。 16 **私たちが神の子供**であることを，**聖なる力(ギ語プネウマ)が私たちの精神(ギ語プネウマ)と共**に**証明(*証言)**します。 17 子供なのですから，相続人でもあります。実に神の相続人(*)であり，キリストとの共同相続人です。ただし，**共に栄光を受**けるため，**共に苦しむならば**のことです）***至聖所***は，**エホバが住んでいる天**を表しています。聖所と至聖所を隔てていた「幕」は，**イエスの人間としての体**を表しています。人間の体のままでは，偉大な大祭司として働くために天に入ることはできません でした。イエスは人類のために人間としての体を犠牲にすることによって，選ばれたクリスチャン全てが天で生きられるようにしました。選ばれたクリスチャンたちも，天での命を受けるためには人間としての体を捨てる必要があります。（ヘブ 10:19，20 従って，兄弟たち，私たちは**イエスの血**により，確信を持って(*大胆に)，**聖なる場所に入る道を歩む(*使う)**ことができます。 20 その道は，**イエス**が**自分の肉体という幕を通って私たちのために開**いて(d*献じて)くださった，**新しい生きた道(*命に至る新しい道)**です。コリ一 15:50 兄弟たち，言っておきますが，肉体は神の王国を受けることができず，朽ちるものが朽ちないものを受けることはありません）イエスは復活した後，至聖所に入りました。そして最終的に，選ばれたクリスチャン全てがそこに入ることになります。

14. ヘブライ 9 章 12，24-26 節によると，エホバの神殿の取り決めが優れていると言えるのはどうしてですか。

14 贖いの犠牲とイエス・キリストの祭司職に基づく清い崇拝を行うための**エホバの取り決め**は，本当に優れています。イスラエルの大祭司は，動物の犠牲の血を携えて人が作った至聖所に入りましたが，イエスは最も聖なる場所である「天そのもの」に入り，エホバの前に出ました。そして，私たちの「罪を取り除くために」，イエスは完全な人間としての命の価値をエホバに差し出しました。（ヘブライ 9:12 キリストは，**ヤギ**や**若い雄牛**の**血ではなく**，**自分の血を携**え，**一度限り聖なる場所に**

入り，私たちを**永遠に救って(d*贖って/買い戻して)**くださいました，24-26 キリストは，**実体の写し**にすぎない，**人が造った聖なる場所にではなく，天そのものに入**りました。今や**私たちのために神の前(d*顔の前)に出**てくださっています。 25 それは，何度も自分を捧げるためではありません。大祭司が自分の血ではない血を携えて毎年聖なる場所に入るのとは違います。 26 そうでなければ，キリストは世が始まった時から何度も苦しまなければならなかったでしょう。しかし今，体制(*時代)の終結の時に，自分を犠牲として捧げて罪を取り除くために一度限り現れてくださいましたを読む。）イエスの犠牲のおかげで，私たちの**罪は完全に許**されます。では次に，天に行く希望を持つ人も地上で生きる希望を持つ人も，全ての人がエホバの神殿で崇拝を行えることについて考えましょう。

庭

15. 幕屋の庭では誰が奉仕していましたか。

15 ***ユダヤ人が行っていた崇拝***。幕屋の庭は，囲われた広い場所で，そこでは祭司たちが奉仕を行っていました。全焼の犠牲を捧げるための大きな銅の祭壇や，銅の水盤も置かれていました。この水盤は，祭司たちが神聖な奉仕を捧げるために身を清めるためのものでした。（出 30:17-20 エホバはモーセにさらにこう話した。 18 「**洗うため**に**銅の水盤**と**その台**を作りなさい。それを**会見の天幕**と**祭壇の間**に据え，**水を入**れる。 19 **アロンとその子たち**がそこで**手と足を洗**う。 20 会見の天幕に入る時や，捧げ物を焼いてエホバへの煙を立ち上らせたり奉仕したりするために**祭壇に近づく時**，**水で洗**い，**死ぬことがないよう**にする; 40:6-8 幕屋すなわち**会見の天幕の入り口の前**に**全焼の捧げ物の祭壇**を置き， 7 会見の天幕と祭壇**の間**に**水盤を据**え，それに水を入れる。 8 **周囲に庭**を設け，**庭の入り口用の幕を掛**ける）でも，後に建てられた神殿には外側の庭もあり，そこでは祭司ではない人たちもエホバを崇拝することができました。

16. エホバの神殿のそれぞれの庭で誰が奉仕していますか。

16 ***クリスチャンの崇拝***。天に行くクリスチャンのうち地上に残っている人たちは，イエスと一緒に祭司として奉仕する前に，エホバの神殿の***内側の庭***で忠実に奉仕します。大きな水盤は，それらの兄弟たちを含め，全てのクリスチャンにとって大切なことを思い起こさせます。それは，道徳面でも崇拝の面でも清い状態でいなければならない，ということです。では，天に行くクリスチャンを忠実に支えている「大群衆」はどこでエホバを崇拝するのでしょうか。使徒ヨハネは，大群衆が「王座……の前に立って……神殿で昼も夜も神に神聖な奉仕をして」いるのを見ました。地上で生きる希望を持つ大群衆は，***外側の庭***で奉仕しています。（啓 7:9 その後，私が見ると，**全ての国や民族や種族や言語の人々の中から来**た，**誰も数え切れない大群衆**が，王座と子羊の前に立っていた。その人たちは白くて長い衣服を着て，ヤシの枝を持っていた，13-15 すると，長老の 1 人が私に言った。「白くて長い衣服を着たこの人たちは誰でしょうか。どこから来たのでしょうか」。 14 それで私がすぐその長老に，「それはあなたが知っておられます」と言うと，彼は私に言った。「これは**大患難から出てくる人たち**です。この人たちは，自分の**長い衣服を子羊の血で洗って白く**しました。 15 そのため，**神の王座の前**にいて，**神殿で昼も夜も神に神聖な奉仕を**しています。そして，**王座に座っておられる方**は，この人たちを**ご自分の天幕で覆い**ます）私たちには，エホバの取り決めの下で清い崇拝を行えるという素晴らしい機会があります。このことに本当に感謝できるのではないでしょうか。

エホバへの崇拝を大切にする

17. 私たちはエホバにどんなものを捧げることができますか。

17 私たちは皆，神の王国の活動を推し進めるために，自分の時間や体力，資産を用いることができます。パウロがヘブライ人のクリスチャンに書いたように，「絶えず神に賛美の犠牲を捧げ……神の名を人々に伝えて，言葉で神を賛美する」ことができます。（ヘブ 13:15 イエスを通して，**絶えず**神に**賛美の犠牲を捧**げましょう。**神の名を人々に伝**えて，**言葉(d*唇の実)で神を賛美**するのです）自分のベストを尽くして仕えることによって，エホバへの崇拝を大切にしていることを示せるのです。

18. ヘブライ 10 章 22-25 節によると，私たちはどんなことを大切にするべきですか。

18 ヘブライ 10:22-25 **誠実な心**と**揺るぎない信仰**を持って**神に近づき**ましょう。私たちの**心**は**血を振り掛けられ**て，**汚れた良心から清**められ，**体は清い水で洗**われました。 23 私たちの**希望**を**しっかり表明し(*人々に伝え続け)**，ふらつかないようにしましょう。**約束**してくださったのは**信頼できる方**だからです。 24 また，**互いのこと**を**よく考え**て(*を気遣って/に関心を払って)，**愛を表**し**立派な行い**をするよう**勧め(*意欲を起こさせ/奮い立たせ)合**いましょう。 25 **仲間と集まることを怠っては**なりません。**よく欠席する人たちに倣わない**ようにし，**いつも励まし合**いましょう。**定められた日が近**づいているのですから(*のを見て)，**ますますこうしたことを行っていきましょう**を読む。パウロは「ヘブライ人のクリスチャンへの手紙」の最後の方で，エホバを崇拝する上で大切にするべき点を教えています。それは，エホバに祈ること，良い知らせを伝えること，会衆の仲間と集まること，励まし合うことです。「[エホバの]日が近づいているのですから，ますますこうしたことを行っていきましょう」とパウロは言っています。そして「啓示」の書の最後の方で，エホバの天使は「神を崇拝しなさい！」と言っています。（啓 19:10 そこで私は，**天使を崇拝しようと**，その足元にひれ伏した。しかし天使は言った。「**気を付けなさい！ そうしてはなりません！** 私は，あなたや，イエスについて証言する務めを与えられているあなたの兄弟たちの，仲間の奴隷にすぎません。**神を崇拝しなさい！ イエス**について**明らかにする(*証言する)ことこそ**，**預言の目的**です」; 22:9 しかし天使は言った。「**気を付けなさい！** そうしてはなりません！ 私は，あなたや，預言者であるあなたの兄弟たちや，この巻物の言葉を守っている人たちの，仲間の奴隷にすぎません。**神を崇拝しなさい**」）これはとても大切なことだったので，天使は同じ言葉を2回繰り返しました。では，エホバの偉大な神殿に関する深い真理を決して忘れないようにしましょう。そして，エホバを崇拝するという素晴らしい機会をこれからも大切にしていきましょう

説明できますか

1．パウロがヘブライ人のクリスチャンに手紙を書いたのはどうしてですか。

・S03　①つ目に、パウロは励ましを与えたいと思っていた。兄弟姉妹の多くは、以前ユダヤ教の教えに従っていて、もしかすると、宗教指導者たちからクリスチャンになったことをばかにされたかもしない。クリスチャンには崇拝のための神殿や祭壇もなければ、祭司たちもいなかったので気落ちし、信仰が弱まってしまう可能性があった。

・S04　②つ目に、ヘブライ人のクリスチャンは、「固い食物」つまり神の言葉の中にある新しい教えや深い教えを理解しようと努力していなかった。中には、まだモーセの律法に従っていた人たちもいたよう。さらに、パウロは深い真理について教え、イエスの犠牲に基づく「勝った希

望」があることを思い起こさせた。その希望は、クリスチャンが本当の意味で「神に近づ[く]」助けになった。
・S05　パウロは、クリスチャンの崇拝が過去のものよりもはるかに優れていると言える理由について説明し、ユダヤ人が律法に沿って行っていた崇拝は「後に来るものの影であって、その実体はキリスト」であると言った。ユダヤ人が行っていた崇拝は、後に行われることになっていた、クリスチャンの崇拝という「実体」の「影」にすぎなかった。

2．神殿に例えられるエホバの取り決めはどんな点で優れていますか。

・S08-09　大祭司には、神の前で民を代表する役割があったが、大祭司も不完全な人間だったので、自分たちの罪のために犠牲を捧げる必要があった。一方イエスは永遠に生き続けるので、誰かが祭司職を引き継ぐことはなく、さらにイスラエルの大祭司とは違って汚れがなく、罪人から分けられているので、自分の罪のために毎日犠牲を捧げる必要もない。
・S10-11　動物の犠牲を捧げても罪を完全に取り去ることはできず、繰り返し捧げる必要があった。一方、イエスは、**エホバの「望まれること」**を表す"**祭壇**"で自分を犠牲にした。エホバはイエスが人間としての完全な命を差し出すことを望んでおられ、イエスの命は、イエスに信仰を持つ人**全ての罪を永久に取り去**るために**「一度限り」**捧げられました。
・S14　イスラエルの大祭司は、動物の犠牲の血を携えて人が作った至聖所に入ったが、イエスは最も聖なる場所である「天そのもの」に入り、エホバの前に出られた。そして、私たちの「罪を取り除くために」ご自分の**完全な人間としての命の価値**をエホバに差し出された。
・S16　天に行くクリスチャンのうち地上に残っている人たちは、イエスと一緒に祭司として奉仕する前に、エホバの神殿の**内側の庭**で忠実に奉仕している。大きな水盤は、それらの兄弟たちを含め、全てのクリスチャンにとって大切なこと、道徳面でも崇拝の面でも清い状態でいなければならないことを思い起こさせる。天に行くクリスチャンを忠実に支えている「大群衆」は**外側の庭**で奉仕している。エホバの取り決めの下で清い崇拝を行えるという素晴らしい機会が与えられていることに本当に感謝できる。

3．私たちはどんなことを大切にするべきですか。

・S17　神の王国の活動を推し進めるために、自分の時間や体力、資産を用いることができ、自分のベストを尽くして仕えることによって、エホバへの崇拝を大切にしていることを示せる。
・S18　パウロは「ヘブライ人のクリスチャンへの手紙」の最後の方で、エホバを崇拝する上で大切にするべき点として、①エホバに祈ること、②良い知らせを伝えること、③会衆の仲間と集まること、④励まし合うことを教えている。

88 番の歌 あなたの道を教えてください

^ 聖書の深い真理の中には，エホバの偉大な神殿に関するものがあります。この神殿とは何でしょうか。この記事では，「ヘブライ人のクリスチャンへの手紙」に収められている，神殿に関する情報を調べます。エホバを崇拝できることへの感謝を深められるでしょう。